

# 本学のアドミッション・ポリシーと入学を望む学生像

## 1 教育実践研究科（教職大学院）のアドミッション・ポリシー

愛知教育大学は、広域の拠点的役割をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。

教育実践研究科（教職大学院）では、確かな指導理論と実践力・応用力を備え、学校教育の場で指導的役割を果たし得る教員の育成を目指します。本課程では、学士課程や教育現場で培った能力に加え、教員への強い志を持った、次のような人を求めています。

- ◎子どもの成長・発達に喜びを感じられる教員を目指す強い意志と情熱を持つ人
- ◎教科指導・学級経営等に関する確かな基礎知識を有し、教育実践や学級・学校経営に活用できる理論を導き出すことに興味関心を持つ人
- ◎自分の行為を振り返り、問題を発見し、その解決に向けて工夫できる人

## 2 大学院 教育学研究科（修士課程）の アドミッション・ポリシー

愛知教育大学は、広域の拠点的役割をはたす教育大学として、人間理解と真理探究に努め、教育が直面する現代的課題への対応力を有し、子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた専門職業人の養成を使命としています。

教育学研究科修士課程では、教科専門並びに教育実践に関わる研究能力を有する教員・研究者の育成を目指します。本課程では、学士課程や教育現場で培った能力に加え、教員や専門職、研究者への強い志を持った、次のような人を求めています。

◎子どもの成長に関われることに喜びを感じ、教員や専門職、研究者として教育の場で先導的役割を担う意欲を持つ人

◎教育に関する基本的な知識・技能を有し、さらに深く学び研究する意欲を持つ人

### 発達教育科学専攻

#### 教育学領域

##### 基本理念と目標

教育という営み自体は、学校が制度として確立する以前の昔から人間がずっと行ってきたことだと考えられます。現代では教育というと学校教育のことを想定する場合がありますが、実際には学校以外の場面で行われる教育的活動もたくさんあり、それぞれが人間の発達に重要な役割をはたしています。教育学領域は、そうした多岐にわたる教育的活動を、さまざまな観点から広く追究し、教育の諸実践に活かすことのできる知見を提供することを目標としています。

本領域では、教育哲学・教育方法学・社会教育学・教育制度学・教育法学・教育社会学・キャリア発達研究などの諸学問分野を基礎としながら、誕生から死に至る間の、家庭・地域・学校・社会などのあらゆる場所における「人を育てる」営みについての、原理的・理論的・実証的・実践的な研究を進めます。そのうえで、これらについての深い洞察力を持った高度な職業人と研究者を養成します。

##### 期待する学生像

教育学領域では、教育学諸分野の基礎知識を有し、それを一層深化させることで、以下のような将来の目標につなげることを希望する人物を求めています。

- ① 教育現場において、主体的に課題を設定して改善に取り組む意欲・能力を有する教員
- ② 教育行政・マスコミなど教育をとりまく分野において、得られた学識を活用して働く人
- ③ 研究者としてのディシプリンを修得して、大学院博士後期課程へ進学する人

#### 教育心理学領域

##### 基本理念と目標

教育心理学領域では、教授・学習心理学、発達心理学、教育社会心理学、臨床心理学等の心理学の視点から、教育という多面的で重層的な活動や実態を、実験や調査等に基づき実証的にとらえることのできる人材の育成を目標としています。

大学院での研究活動としては、院生各自が抱えている心理学に関わる関心をもとに、実験、調査、観察、事例研究などを通して修士論文の作成をめざしています。

##### 期待する学生像

- ・心理学諸分野の基礎知識を有し、それらについて深く学び、研究する意欲を強く持つ人
- ・教職やその他の社会人としての経験をもとに、心理学への関心をもち、心理学の専門知識・能力の向上や、実践的な課題についての理解を深めることをめざす人
- ・学校心理士（補）の専門資格を取得し、心理学を活かした教育支援を志す人

## 幼児教育領域

### 基本理念と目標

人間形成の基礎を培う乳幼児期の発達と教育を研究対象とする幼児教育領域は、幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉などの専門分野から構成されています。幼児を取り巻く社会や文化についての理解や、幼児教育の今日的課題への対処や改革、社会的な要請としての子育て支援や障がい児保育、幼・保・小の連携なども視野に入れていきます。

幅広い知識を習得するとともに、理論と実践との有機的連携を図り、幼児教育の創造開発に寄与できる高い専門性を有した保育者や研究者の育成、とりわけ保育者養成に携わる研究者を育成したいと考えています。また、現職の保育者を積極的に受け入れ、資質の向上を図り、幼児教育の現場に沿った実践的な課題解決能力と指導力が発揮できるように教育・研究を行います。

こうした課題に応えられるカリキュラム編成をもとに、附属幼稚園や地域の幼稚園・保育所・施設などの実践に密接に関わることを意識して研究課題を追究していきます。研究対象の特性上、フィールドでの調査や観察、臨床的なアプローチ、統計などの様々な研究方法についても学びます。

### 期待する学生像

1. 幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉に関する基礎的知識を持ち、さらに専門的に研究することによって、子どもたちの能力や個性に応じた支援のできる知識と実践的な指導力を兼ね備えた保育者を志す人
2. 幼児教育学、幼児心理学、保育内容学、児童福祉等の諸分野の専門性を深め、幼児教育の進展に寄与する研究者や、保育者養成校の教員を志す人
3. 現職としての経験による実践的な課題を省察し、幼稚園、保育所、施設などの場で、豊かな学識とそれに基づく高い実践的力量を持ち、幼児に関わる様々な分野において中核的な立場での活躍を志す人

## 生活科教育領域

### 基本理念と目標

「生活科」や「総合的な学習」の実践では、子どもの興味・関心や身近な生活課題、教科横断的な課題などにもとづく体験的な学習、調査活動的な学習、問題解決的な学習などを重視します。子どもたちが自ら自分の願いや目当て、課題などを見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、これらをよりよく成就・解決したり、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組み、自分の生きがいや生き方を考えたりする学習を求めているからです。そして、今日の学校教育と学校改革においては、このような「生活科」及び「総合的な学習」の理論と実践が必要不可欠だと思われれます。なぜなら、これらは子どもたちの「生きる力」を培う創造的な教育活動であり、教師の自己変革や授業改革、学級・学校づくり、教育の本質追究等にもつながる重要な教科や時間だからです。

本領域は、これらの実践に必要な感性や情性、知性などが豊かで、高度な構想力や指導力、分析力などを発揮できる力量豊かな教師の養成を目指しています。

### 期待する学生像

従来の伝統的な教科とは異なる生活科および総合的な学習の創設の趣旨や理念、その特質についての基本的な知識と理解を有する人。これらの教科等が目指している子ども像に共感し、その理論と実践を積極的に学び、それらを改善することに意欲のある人。その子ども像とは、自分や身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身と自分の生活について見つめ考える子ども、日常生活や社会の矛盾と問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む子どもです。そして、専門的知識・技能と研究能力をもち、さらに実践的力量のある教員を志す人。また、そのような教員の育成に携わる研究者を志す人を求めています。

## 日本語教育領域

### 基本理念と目標

本領域の教育目標は、国内外の学校をはじめとするさまざまな教育機関で日本語教育や異文化間教育に従事する人材の養成であり、つねに広い視野に立った上で専門性を深める能力の育成を心掛けています。本領域は、教育の現代的課題である日本語教育に関する諸問題について、社会、文化、言語、教育などの広い視野から研究を深めるとともに、学校をはじめとする様々な教育機関で日本語教育に従事する人材の育成を目指します。また、近年、日本国内で増加している外国人児童生徒の教育についても、重点的な教育研究を行っています。

### 期待する学生像

日本語教育領域では、次のような学生を求めています。

- ・日本語や日本文化をはじめとして、広く世界の諸言語・諸文化をめぐる問題に関心を持てる人
- ・外国人への日本語教育などを通じて、国際的な相互理解のあり方を考えることができる人
- ・高度な専門知識を獲得し、学界、教育界や社会で求められている責任を果たし、言語や文化に関わる教育・研究の推進にかかわっていく意志と、職業人としての強い倫理を持てる人

## 情報教育領域

### 基本理念と目標

現在では、公立学校のほとんどがインターネットに接続されており、そのうち半数以上の学校が高速インターネットに接続されている。家庭においてもパソコンやスマートフォンを使ったインターネットの利用が広まっている。急激な情報化の流れのなかで、現代の子どもたちは、自分自身の安全を確保しつつ情報化社会に対応してゆく能力を身につけることが必要とされている。情報教育に関して適切な指導ができ、さらに、学校の情報環境を利用してさまざまな教科で、わかりやすい授業を展開できる教員が求められている。

本領域の学生は、情報教育のあり方を含め、学校における情報教育に関する諸問題の研究とともに、広く情報技術を活用した教育支援のあり方、新しい指導法の開発の研究も行う。さらに、学校で必要とされる、サーバーの管理運営やメディア教材開発などの実践技術も修得する。

### 期待する学生像

本領域では、本学や他大学の学部からの進学者、現職教員や社会人など職業を持っている者、留学生など、多様な学生を受け入れている。

本領域が期待するのは、情報教育関係の知識・研究態度を身につけ、学校や教育関連分野で情報教育の指導者・研究者となり得る人材である。具体的には、次のような学生像を想定してカリキュラムを組んでいる。

- ・情報教育に興味のある者
- ・わかりやすい授業を実践するための教材開発、情報機器を利用した授業実践・授業カリキュラムの開発に興味のある者
- ・教育に有用なシステム開発に興味のある者

## 特別支援教育科学専攻

### 基本理念と目標

平和に寄与し、幅広い教養・人間性及び総合的な判断力を身につける本学の教育理念を基盤にし、教育に関わる理論的・実践的研究を進め、実践力と専門的能力を備え教育の様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す本学専攻科の理念を共有する本専攻は、特に障害者の教育と生涯にわたる支援に関わる取り組みについて、次のような基本理念と目標を持って有為な人材の育成に携わります。

本専攻では、障害者のニーズに適切に対応でき、広範な実践的指導力を有する専門職、さらには障害者の教育や福祉に関する高度、かつ総合的・多面的・柔軟な研究を進展していく人材を養成することを目的としています。そのため、基礎から応用・実践学までの幅広い講義、教育・心理・福祉・医療の連携を重視した講義を開講するとともに、地域の教育・福祉機関と連携することで、高度な実践的指導力の育成を図っています。

### 期待する学生像

特別支援教育科学専攻は、主として知的障害者、肢体不自由者、病弱者、聴覚障害者、視覚障害者についての教育、生涯にわたる支援という視点に立つ福祉という2つの大きな柱によって構成されています。ゆえに、これらに関する基本的知識を有し、障害者の個々のニーズに応じた教育・福祉の研究並びに実践に強い意欲を示し、将来これらについての研究・実践における指導的立場を目指す人を望みます。

また、現在の特別支援教育では、特別支援学校が障害者への教育に関わる地域のセンターとして機能することが求められており、さらに幼稚園、小・中学校、高等学校、大学・専門学校等の教育機関においても学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（AD/HD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）等の発達障害者への積極的な支援が求められています。本専攻においては、社会や時代の要請に合わせ、個々のニーズに対応した教育の実現に強い意欲を示す人を望みます。

## 養護教育専攻

### 基本理念と目標

本専攻は、全国に先駆けて1993年に新設したものであり、「養護教諭のあり方の基盤となっている養護教諭論、養護活動特論、養護活動研究を主体とした『養護教育学』は教科の専門領域とは異なることから、養護教諭の専門について学び研究できる固有の専門領域が必要である」との理念のもとに設置しました。

加えて、養護教諭には、学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの中核となって児童・生徒等の心身の健康の保持増進や、発育・発達の支援を行うことが求められています。そのために、本専攻では、健康に関連した諸科学の研究成果を活用して、多様な課題に対応できる高度な専門的知識と能力を有する養護教諭及び研究者を育成し、もって養護教育学および関連諸科学の発展に寄与することを目的とします。

### 期待する学生像

- 1) 養護教育学や関連諸科学の基礎となる知識を有し、それらについてさらに深く学び研究する意欲を持っている人
- 2) 関連諸科学の基本的学識を有し、教育現場における理論と実践を融合させる養護教育学研究に興味・関心を持っている人
- 3) 教職の経験を生かした実践的研究を分析し、他校の教育実践に活用できるような理論を導き出すことに興味・関心を持っている人
- 4) 教職をはじめ社会人としての経験をもとに、養護教育に関する専門的能力の向上を目指し、実践的能力や学術的能力の研鑽に意欲を持っている人

## 学校教育臨床専攻

### 基本理念と目標

本専攻では、「ハートのある現場志向の臨床家育成」を基本理念に掲げ、教育臨床学・心理臨床学の知識や理論の習得のみならず、それらの知見に基づき、教育分野をはじめ、広く子どもたちへの援助が求められる福祉や司法、医療など様々な臨床分野において活躍できる、高度な専門性を身につけた心理臨床家の養成を目指しています。

この理念のもと、大学院在学の間、臨床実践に必要な心理臨床的な態度や姿勢、基本的な知識、心理面接ならびに心理検査を行う技能を身につけることを目指し、大学院修了後には様々な臨床現場において高い臨床実践能力を発揮できる人材の育成を目標にしています。

### 期待する学生像

本専攻では、専門的な心理臨床の知見と臨床実践力によって、心理臨床現場を訪れる方々の心理的問題ならびにそれらを取り巻く家庭・地域・社会の諸問題に対応することのできる、専門家を志す人を求めています。

具体的には、臨床心理学の知見だけでなく、相談者や他領域の専門職の方とのやりとりからも学んでいこうとする謙虚でありながらも積極的な姿勢、自らの能力に自己満足することなく絶えず心理臨床家としての専門性を高める努力を惜しまない向上心を持って、現場において心理臨床実践に取り組んでいこうと考えている熱意のある学生を求めます。特に、本専攻ではカリキュラムのなかに学内外の実習を多く取り入れておりますので、主体性や目的意識を持って実習に臨むことのできる意欲のある学生を求めています。

## 国語教育専攻

### 基本理念と目標

国語教育専攻は、ことばとことばを生みだした人間・社会・自然に対する広い認識に立って、国語および国語にかかわる言語文化（国語学、国文学、漢文学、書写・書道）の諸領域について、各自が設定した中心的課題を深く考究する場です。同時に、学校教育における国語教育においては、児童・生徒一人ひとりに異なった現実（児童・生徒とそれを取りまく地域、学校、家庭）が存在し、その個別具体性に即した課題に 대응していくことが要求されます。当専攻には、国語科内容学領域と国語科教育学領域とがあり、いずれかに所属し、学び研究していくこととなりますが、両者はあい支えあう関係にあり、教育の現場で要求される実践力の向上をはかるとともに、その基盤となる学問分野の研究能力をも高めていく必要があります。また、その研究能力は、教育の場における実際的な課題に直面して、真価が問われることにもなります。当専攻は、そうした活力ある研究能力を高める場であることを目指しています。

### 期待する学生像

上記の理念と目標に掲げたように、目の前の現実的課題を直視するとともに、それを歴史的、社会的に広い視野に立って、積極的かつ創造的な態度で研鑽を積む意欲のある人、および、将来国語教育の現場に立ち、優れた実践力・研究能力で多様な問題に対応する熱意をもった、次のような人々を求めています。

- (1) 優れた国語教育の能力と実践性を持った教育者を志す人
- (2) 具体的な課題を持った意欲的な現職教員の方々
- (3) 創造性豊かな研究・開発能力を培い、国語教育の進展に寄与する研究者を志す人
- (4) 国語科内容学領域（国語学・国文学・書道・漢文学）を深く研究する意欲をもつ人
- (5) 国語科教育学・内容学に対する深い造詣を兼ね備え、社会のさまざまな分野での活躍を志す人

## 英語教育専攻

### 基本理念と目標

英語教育専攻の領域は大きく「英語科教育学」と「英語科内容学」に分かれ、英語科内容学はさらに英米文学と英語学に分かれます。

英語科教育学では理論と応用能力とを兼ね備えた英語教師の養成を目指します。また現職の教員との連携や、内外の研究成果を活用できるような環境を有しています。英語科内容学（英米文学）では、英文学・米文学・アイルランド文学を中心に、その背景となる歴史や文化も研究します。時間的・空間的に異なる背景を持った英語を研究することは、英語力を格段に向上させると同時に、文化の多様性に対する理解力を養うことにもつながります。英語科内容学（英語学）では英語という言語の特性を、歴史的、共時的に解明します。自分たちが教える英語ということばの成り立ちや仕組みについて深く学ぶことは、確かな英語指導力を修得することに直結します。

以上の三分野が有機的に連携・協力することにより、修士レベルにふさわしい高度な職業人の養成を目指します。

### 期待する学生像

本専攻では、英語教育の分野で指導的な役割が果たせるような人材の育成を目指し、次のような学生を求めています。

- ①卓越した英語力、英語分析能力、言語分析能力を有し、それを教育現場に応用できる人。
- ②外国語教育に関する高度な専門知識を構築し、教育や研究の分野に貢献できる人。
- ③世界の歴史や文化、また社会に目を向け、高いグローバルリテラシーを有する人。
- ④国際交流に積極的に関わり、外国との相互理解を進める上での社会的な役割を果たせる人。

英語教育の具体的な諸問題に対して敏感であることはもちろん、高度な英語力と専門的知識、また応用能力を背景として、広い視野を持って問題解決にあたり、分野を先導していく意欲と能力を有する人材を求めます。

## 社会科教育専攻

### 基本理念と目標

社会科教育専攻は、教育現場での社会科における指導的役割を担い、また広く社会科に関わる教育・研究活動を通して日本社会さらには国際社会に寄与できるような教員や研究者を育成することを目標としている。そのためには、現代社会の諸問題を多面的・多角的にとらえ、体系的に理解し、自らの見識をもって行動できるような、深い学識と優れた実践力を育てていくことが必要となる。その課題を果たすために、社会科教育専攻では、社会科教育学領域と社会科内容学領域とに分かれて、それぞれの特色を生かして教育を進める。社会科教育学領域では教育現場との関わりを重視しつつ、教材や授業法の研究・開発など実践的な活動によって力量を高めていく。社会科内容学領域では、哲学・倫理学、歴史学・民俗学、地理学・地誌学、社会科学、国際文化の5つの分野に分かれて教科の背景となる専門研究への理解を深めるとともに、広い教養に裏打ちされた知性を養っていくものである。

### 期待する学生像

社会科教育専攻では、上記の目標に向かって、教員とともに学び、研鑽を積んでいくための意欲と能力を有する学生を求めている。そのため

- ①平和で民主的な社会の形成に向けて寄与する意欲のある者。
- ②国際社会の中で生きる日本の将来に向けて貢献しようとする意欲のある者。
- ③社会科教育に関する高い専門性を修得するための意欲と能力のある者。
- ④学校教育の現場で、地域や保護者と協働して活動する意欲と能力のある者。
- ⑤郷土や地域への深い理解に立って次世代への教育にあたらそうとする意欲と能力のある者。

などに該当する学生が望ましいことは勿論であるが、何よりも自らを高め、教育現場における社会科教育の中核的な役割を担う存在になろうとする熱意を持った学生を、われわれは求めて已まない。

## 数学教育専攻

### 基本理念と目標

数学的なものの考え方や知識が自然科学の根底を支え、人類の文明・文化の発展と繁栄を支えてきました。とりわけ、近代以降の科学技術の進歩は数学なくしては考えられません。今後も人類の歴史が存続するかぎり、新たな技術の理論的根底を支え、開発の推進力として数学の役割はますます大きくなって行くことでしょう。特に、情報化と国際化がますます進む現代にあっては、数学を学ぶことを通して得られる論理的な考え方や、普遍的で自由なものの方が強く求められています。

本研究科数学教育専攻は、数学教育に関する理論的・実践的に高度な専門性を持つとともに、職場や地域の核となれるようなリーダーシップを持った教員の育成や、数学をはじめとする自然科学の基礎、およびコンピュータ等に関する情報科学の基礎を身につけ、社会・文化の発展に寄与する人材を育成することを目標としています。

### 期待する学生像

- ・高度で専門的な職業人にふさわしい知識を持ち、教育活動を計画し実践できる教員を志し、教育の現場での活躍を志す人
- ・社会の多様な要請に対応できる専門性と、教育に関する深い造詣を備え、さまざまな分野での活躍を志す人
- ・児童・生徒はどのように算数・数学を理解していくのかに興味があり、その知見を生かした教え方を追究したい人
- ・小学校、中学校、高等学校における算数・数学の内容と高度な数学との関係に興味を持ち、これからの教育ではどういう数学の内容・方法を教えていくべきかを追究したい人
- ・新しい数学が、いかにして生まれ、そしてさまざまな領域でどう活用されているかを探究したい人

## 理科教育専攻

### 基本理念と目標

本専攻は理科教育学領域ならびに理科内容学領域の教育研究活動を基盤に、高度な能力を持つ教員の養成と、理科の教育や内容に関する諸問題について深い知識や研究能力を持つ人材の育成を目的とする。

#### 〈理科教育学領域〉

小・中・高等学校や社会教育施設での理科教育における教育目的・教科課程・指導方法・教材構成・認知心理・学習評価・教師教育等に関わる諸問題の解決に向け、理論的・実証的な研究を推進できる専門的能力の育成とともに、その成果に即した高度な教育実践を展開できる力量の獲得を目標とする。

#### 〈理科内容学領域〉

小・中・高等学校における理科（物理学・化学・生物学・地学）の内容理解の深化および考察力の強化、現代的理科内容の研究力の確保を教育研究活動の重点的目標とする。

### 期待する学生像

本専攻の理科教育学領域ならびに理科内容学領域ではそれぞれ、次に示すような基礎的力量を持ち、高度専門的職業人を志して学修や研究の推進に意欲のある学生の入学を期待する。

#### 〈理科教育学領域〉

初等・中等教育に関する基礎的な知識・技能や教育実践力を獲得した人で、理科教育に関する高度な専門知識・技能と教育実践研究力を持った学校教員やその育成に寄与する研究者を主に志す人

#### 〈理科内容学領域〉

自然科学に対する大きな興味と豊富な探究心を持ち、自然科学に関する基礎的な知識と考察力を有した人で、理科の内容研究の進展に寄与する学校教員や研究者、その専門知識に関連した職業人などへの志を持つ人



## 芸術教育専攻（音楽分野）

### 基本理念と目標

本分野は「音楽科教育学領域」と「音楽科内容学領域」の2領域からなります。どちらにおいても、社会の様々な場において音楽が抱えている多様な課題へ柔軟に対応できる能力を有した音楽教育の専門家、並びに音楽を通して社会に貢献する指導者の養成を目指しています。

その基本理念は「包括的音楽性」を育てることにあります。包括的音楽性とは、ヨーロッパ音楽に偏ることなく多様なジャンルの音楽へ対応できる音楽性を追究するとともに、演奏や創作の技法、そして音楽を指導する方法論、さらにそれらを客観的に分析し考察するための手法を学ぶことで、音楽に対する感性を研ぎすまし追究していく中で得られる総合的な能力を指しています。

よって本分野では、自身の専門性をより深めていくためにも、特定の専門分野に限定することなく幅広い視野をもち、多元的かつ多角的に課題へ取り組むことで包括的音楽性をより高めることを求めています。

### 期待する学生像

音楽分野では以下のような資質と能力を具えている人物、またはそれらを身に付けようとする意志を有する人物を求めています。

- ・将来、学校教員や社会における音楽指導者および研究者をめざすために必要な基本的音楽知識と技能を有している者
- ・人間としてあるべき倫理観と人権意識を常に高くもち、自らの教育経験と音楽経験を客観的に振り返りながら専門性と幅広い見識を追求しようとする者
- ・音楽科教育を中心とする理論と実践に関わる基礎的な研究能力を身につけるために、教育と研究活動を自ら推進していこうとする意欲のある者
- ・音楽と教科教育を架橋する専門的知識と教養の獲得を目指し、教育と研究に携わっていく者として絶えず向学心と探究心をもち続けながら、自らの専門的能力の研鑽に意欲的に取り組んで行こうとする強い意思のある者

## 芸術教育専攻（美術分野）

### 基本理念と目標

本分野は、美術・工芸の専門的な技能や指導力を持った学校教育者や、社会教育など様々な教育機関での教育者・指導者を育成することをめざしている。

また、美術・工芸における創造性およびそれらの教育的な意味と価値を、幅広い作品制作と思索の積み重ねを通じて総合的に探究することを目的としている。

本分野は、美術科教育学領域と美術科内容学領域のふたつの大きな柱によって構成されている。

このいずれかの領域を中心としながら、幅広い分野にわたる研究教育と実践体験を重ねることにより、様々な形で現代の社会に貢献できる人材を育成することが本分野の目標である。

### 期待する学生像

この分野で何をどのように学ぶかというしっかりした目的意識と、将来への展望を持つ学生の入学を期待する。

美術とは、決して孤独な作業ではない。狭い意味では共同の作業も多いし、広い意味では教育機関・企業・自治体など様々な場所で、人々と手を取り合いながら、より豊かな社会をめざす営みでもある。そういう社会的な意識を持ち、美術を通じた社会貢献を目指す学生を歓迎する。

学校教員の現職者はもちろん、大学を卒業し社会で経験を積んだ受験生も歓迎する。

## 保健体育専攻

### 基本理念と目標

保健体育専攻は、学校体育、運動・スポーツ・健康に関する複雑で多様な課題を積極的に解決できる高度な専門能力を備えた保健体育分野の専門家の育成をめざします。本専攻は「保健体育科教育学」と「保健体育科内容学」の二領域からなり、前者では、保健体育科の授業づくり・教材開発など、教育実践に直接寄与するテーマを取り扱い、幅広い教養と実践的思考に支えられた専門的学識と技量を体系的に修得します。後者は、保健体育科の教育内容の科学的な根拠を担う領域であり、体育・スポーツに関する課題に対して、体育学・運動学・学校保健学の三分野からのアプローチによる高度な専門的知識と研究手法、分析能力を身につけ、諸問題に対応できる能力を養います。

大学院修了後は、学校教育において教科研究のリーダーとなりうる教員や、さらに保健体育分野における科学的な研鑽を積み重ねていける人材の育成を考えています。

### 期待する学生像

保健体育分野にかかわる専門家を育成するために、次のような学生を求めています。

- ・教員および研究者をめざすための基礎的学識を有する者で、学校体育、運動・スポーツ・健康に関する問題に関心を持ち、それらについてさらに学修することに意欲のある者
- ・保健体育科の教育を中心に、教材開発力や実践能力を高め、学校現場における問題の解決に積極的に貢献しようとする者
- ・教員をはじめ社会人としての経験をもとに、現場に求められる専門能力の一層の向上をめざし、その研鑽に努め、指導的立場を志す者
- ・保健体育科教育学・内容学のより高度な専門的知識や研究手法を学び、将来、保健体育分野のより高度な専門家としての道を歩むことに熱意のある者

## 家政教育専攻

### 基本理念と目標

人とモノがグローバルに行き交う現代にあっては、急激に変化する「生活」とそれを取り巻く人間関係や社会のあり方、人の生活と自然環境の関係を多面的に探究し、生活課題に主体的に共同で取り組み、「生活」を真に豊かなものに変えていくことが求められています。家政教育専攻は、この課題に向き合う教育・研究の在り方を追究することを目的として、「家庭科教育学領域」と「家庭科内容学領域」の二領域を設けています。「家庭科教育学領域」では、上記の課題に向き合う教育実践の創造のために教育理論、教育史、教育実践などの研究を中心に行います。一方、「家庭科内容学領域」では、家庭科で追究される生活課題（例えば、消費社会や少子高齢社会における生活のあり方、環境と共生など）について、食物学、被服学、住居学、家族関係学、生活経営学、生活経済学、保育学、消費生活科学などの研究視点から探究します。

### 期待する学生像

家政教育専攻では、「生活」を探究することと、そのことを人が生涯追究し続ける「学びの営み」について深い洞察をもった、家庭科教員など学校教育・社会教育現場において活躍できる専門職、公務員など行政において人々の生活に関わる専門職、あるいはそれらの育成に寄与することのできる研究職などにつける人材の養成をめざしています。その目的のため、家政教育専攻では、以下のような高い志を持った学生を求めています。

- ・家庭科の教員を志し、現代生活の諸課題を探究し、教育方法を開発することを志す人
- ・高度の専門的知識と実践力を持った学校教育および社会教育の専門家を志す人
- ・家庭科に関する高度な専門的知識と研究手法を身につけた専門的職業人を志す人
- ・市民生活に関する高度な専門的知識を生かし、行政や地域に密着した公的な職業人を志す人

## 技術教育専攻

### 基本理念と目標

現代社会を主体的に、健全に生きるためには国民の一人ひとりが、ものづくりに関する実践的な理解と技術的素養を身につけることが必要不可欠です。本専攻はこのような観点に立ち、製品の設計・加工技術、エネルギーの制御・利用技術、作物栽培等の生物育成技術、及びコンピュータ・情報通信技術など、生活及びものづくり=生産活動の基盤となる技術を、教育・研究の対象とするとともに、成長期にある子どもの全人格的な発達を促す上で有効な技術教育のあり方や展開法等を重要な教育・研究課題としています。

### 期待する学生像

上記した観点からのより高度な理論的・教育的基盤を修得し、豊かな研究能力と教育実践力を身につけたい人、そうした能力を有した有為な教員や研究者、技術者を志す人を求めます。とりわけ、学んだ科学的知識・技術を、実験・実習などにより実践的に検証したり、創造的な活動をする実行力が要求されます。また、本専攻では、電気、機械、木材加工、金属加工、栽培・飼育、情報等多くの分野に関する知識と技能が必要であり、それらを技術教育に生かすため、有機的に連携させる柔軟な発想と創意・工夫する能力も求められます。従って、特に本専攻では、積極的に学習する意欲のあることに加え、次に該当する者を望みます。

1. 科学技術に強い興味と関心を持っていること
2. 獲得した知識や技能を積極的に活用する行動力・実践力があること
3. さまざまな課題解決のために、創意・工夫する豊かな感性と創造力を持っていること
4. 技術教育につながる教育に関する基礎的知識とりわけ子どもの発達への理解を持っていること

### **3 大学院教育学研究科 後期3年博士課程の アドミッション・ポリシー**

共同教科開発学専攻は、愛知教育大学と静岡大学が共同して教育課程を構成している後期3年だけの博士課程です。本共同専攻では、子どもたちを取り巻く環境を視野に入れ、教科との関わりの中で学校教育が抱える複雑化、多様化した諸課題に対応した教育及び研究を行っています。

本共同専攻は、教科開発学について高度で専門的な教育及び研究を行うことで、次のような能力を持つ者の育成を目指しています。

- ◎教育事象の因果関係を把握し、教科との関わりの中で学校教育が抱える諸課題に対応した研究を自立して遂行できる能力
- ◎学術的及び専門的知見を教科内容として構成し、教育論、教科内容の構成原理や教育方法、教材を開発する能力
- ◎学校教育の実践を理論化し、その理論を実践に活かす能力

本共同専攻では、大学院修士課程又は専門職学位課程や教育現場等で培った十分な学力、研究力、実践力に加え、新たな学問分野に挑戦する意欲を有し、博士の学位取得後、教科開発学の分野において自立して研究と実践を行い、大学教員をはじめとした研究者として、広く教育界に貢献する意志がある者を求めています。